

言葉にすることで見えてくる『校内生活体験発表大会』

8月28日（金）、「校内生活体験発表大会」が行われました。

この大会では、生徒一人ひとりがこれまでの学校生活や日常を振り返り、その中で経験したことや感じたこと、そこから得た気づきや学びを、自分自身の言葉で文章にまとめます。今年度も夏休み前から準備を進め、それぞれの思いを発表原稿に託しました。

今回は、1年生3名、2年生1名、3年生1名、4年生1名の計6名が発表に臨みました。自分の経験や思いを人前で語ることは、決して簡単なことではありません。それでも、それぞれが自分の言葉を大切にしながら、会場にいる仲間や先生方に向けて、最後まで堂々と発表する姿が見られました。

発表された内容は一人ひとり異なりますが、そこには、これまでの自分を見つめ直し、これからの自分について考えようとする姿がありました。発表を聴く生徒たちにとっても、仲間の経験や思いに触れることで、自分自身の学校生活を振り返るきっかけとなったのではないのでしょうか。

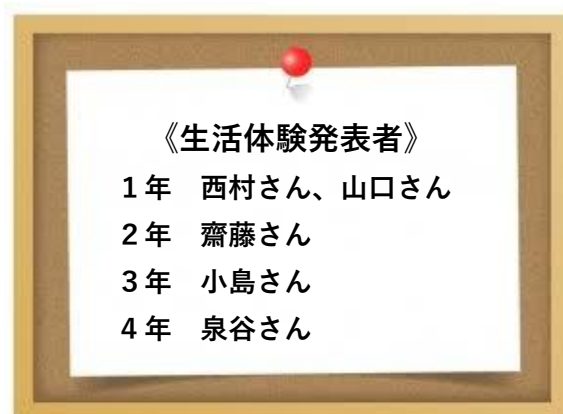
また、当日は発表者だけでなく、司会進行や集計などの役割を担った生徒たちも、それぞれの持ち場で大会を支えてくれました。多くの人の協力によって、一人ひとりが安心して発表できる場がつくられたことにも、大きな意味があったように思います。

「自分のことを言葉にして伝える」。その一歩を踏み出した発表者の皆さん、そして大会を支えてくれた皆さん、本当にありがとうございました。

最優秀賞は、4年生泉谷一輪さんの「希望」でした。



▲ 最優秀賞の4年泉谷一輪さん



▲ 皆がしっかり耳を傾けて聴いていた



▲ 運営してくれた生徒たち



他にも回収係、集計係、審査委員もいました



総合的な探究の時間『中庭園芸』 育てて、比べて、味わって「ジャガイモ試食会」



今年度の「中庭園芸」では、4種類のジャガイモを育てています。

栽培しているのは、南信州で栽培されている「売木紫芋」「下栗芋」「清路内黄芋」と、アンデス原産のジャガイモを親にもつ「アンデスレッド」です。5月から畑で栽培を始め、講義では、それぞれの品種の特徴やジャガイモについて学びながら、成長の様子を見守ってきました。

そして今回、収穫したジャガイモを実際に食べ比べる「ジャガイモ試食会」を初めて行いました。

当日は、あいにく雨が降り始める天候となりましたが、1年生男子と先生方で6本の畝を掘り、4種類のジャガイモを収穫しました。収穫したジャガイモは、1年生女子が調理室できれいに洗い、大鍋で茹でました。また、2年生はジャガイモを細く刻んで薄く並べ、フライパンで焼く「ガレット」を作りました。

給食の時間には、茹でた4種類のジャガイモを全員で試食しました。それぞれの味や食感を比べられるよう、味付けは塩だけにしました。実際に食べてみると、「甘みがある」「ねっとりしている」「ほくほくしている」など、それぞれに違いがあり、同じジャガイモでも品種によって味や食感が異なることを実感することができました。

講義で知り、畑で育て、違いを観察し、自分たちの手で収穫し、そして実際に味わって確かめる「中庭園芸」では、教室の中だけでは完結しない学びを大切にしています。知識として学んだことを実際の体験につなげ、そこから新たな疑問や発見を生み出していく。今回のジャガイモ試食会も、生徒たちにとって「自分で体験して確かめる」探究の時間となりました。



▲ 雨の中でのジャガイモ掘り



▲ 豊作に笑顔がこぼれる



▲ 調理室できれい洗う



▲ 大鍋で皮ごと茹でる



▲ 食堂のテーブルに並べられた



▲ 皆で味見してみた